

## 第 50 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第 50 回 2012 年 7 月 28 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 16 : 30 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 井端、大野、小林、柴山、菅原、杉本、高市、宮川、山本、依田  
(10 名)

### 1. テーマ : 再生企業の分析—メルシャン株式会社

- ・ 報告者 : 杉本 敦彦
- ・ 配布資料 : 14 枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、メルシャン株式会社 (以下同社) の再生について分析したものである。同社は、昭和 9 年 12 月に酒造会社として事業を開始し、ライフサイエンスを中心とする医薬、農薬、工業化学、飼料と事業範囲を拡大してきた。

同社の収益性は、2007 年 12 月期より資産の運用効率が大きく低下し、その後 2008 年 12 月期にはマイナスに転じている。同社は 2006 年に酒類生産工場を新築し生産規模を拡大したが、売上高においては減少傾向にある。このことから同社の設備投資は期待しただけの運用収益をあげることができなかつたのではないかと推測している。

また、2001 年 12 月期から人員削減の費用を計上しており、業績悪化が顕在化する以前に縮小戦略を試みていたと推察した。

同社の酒類事業の売上高は、2007 年 12 月期を境に減少傾向にあった。売上減少に加え、業績悪化の原因として、設備投資政策や縮小戦略の失敗といった資産運用効率の低下を挙げた。2008 年 12 月期には、大きな経常損失を計上していることから、2008 年付近では自力での再生が実施困難な状況に陥つたと推測した。同社は 2010 年 12 月に麒麟ホールディングス(株) の完全子会社となり、同社の経営資源をワイン事業に集中させ、大規模な縮小戦略をおこなつたと考察した。

### 2. テーマ : 『RETRENCHMENT: CAUSE OF TURNAROUND OR CONSEQUENCE OF DECLINE? By VINCENT L. BARKER III and MARKA. MONE』 についての検討

- ・ 報告者 : 小林 宗一郎
- ・ 配布資料 : 6 枚

(文責 : 小林宗一郎)